

令和3年度 学校評価総括表（林小学校）

- 1 学校教育目標 人権を尊重し、心身ともに健康で、豊かな人間性と確かな学力を備えた、たくましい児童を育成する。
- 2 本年度の努力目標
- (1)すべての教育活動の場面で、「学習意欲」の向上と「自ら考える力」「関わる力」を育成するため、全教職員で意思統一を図り、指導方法の工夫改善を進める。
すべての教育活動を通して、教職員の授業力の向上を図る育成を図る
- (2)道徳性や社会性を高めるため、体験活動や道徳教育・特別活動を充実させる
- (3)運動習慣の確立と望ましい生活習慣の形成を図るため、学校体育の指導法を見直し、保護者と連携して食育・健康・安全教育を充実させる。

3 総括表 ※ 評価は5段階（S:大変よくできている A:よくできている B:できている C:努力がいる D:大変努力がいる）

領域	評価項目		自 考 察 (成 果 と 課 題)		評価	次年度への改善点等	学校関係者評価 (学校評議員)	
	評価項目	評価の観点	自 考 察 (成 果 と 課 題)	評価			学校関係者評価 (学校評議員)	学校関係者評価 (学校評議員)
学 校 経 営	経営方針	学校経営方針の周知	「学校は、重点的に取り組んでいることを分かりやすく伝えているか」という設問に対して、88%の保護者が「強く思う」「そう思う」と答えている。また、教職員による自己評価でも100%が肯定的に捉えている。様々な機会を通して教職員間の共通理解を図ったり、保護者への周知を繰り返してきた成果だと捉えている。	A	・今後も教職員間の共通理解の徹底、保護者への周知に取り組んでいく。 ・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活性化し、地域と一体となり特色ある学校づくりに努める。	A		
	開かれた学校	保護者や地域住民への情報発信・連携	情報発信と保護者・地域との連携において、保護者の87%、教職員の100%が肯定的な評価をしている。学校の教育活動について例年以上にホームページに掲載したり学校便りで紹介したりしてきた成果だと捉えている。今後も継続していきたい。	A	・各教科の学習において、積極的にゲストティーチャーを招き、地域人材を生かした教育活動を実践する。 ・学校の教育活動を学校ホームページや学校便り、学年便りで積極的に情報を発信していく。	A		
	学級経営	一人一人を主人公にする学級経営の実践	児童の54%が「学校がとても楽しい」（昨年度より8%増加）、40%の児童が「学校が楽しい」と答えている。また、100%の教職員が「一人一人の個性や能力を生かす教育ができている」と自己評価している。しかし、「学校があまり楽しくない」（7名）「学校が全く楽しくない」（4名）と回答している児童がいる。このことを真摯に受けとめ、児童の気持ちに寄り添い、仲間づくりと学力保障を中心に据えた、一人一人を大切に教育を日々行っていかなければならない。	B	・今後も児童理解の時間を定期的に設け、全教職員で共通理解を図り、児童の指導に生かしていく。 ・面談や電話連絡、連絡帳等を通して、保護者との連絡・連携を密にし、同一歩調で児童の成長を促す。	B	B	
	教職員の資質向上	授業力の向上 組織力の向上	87%の児童が「授業の内容を理解している」と答えている。教職員はICTを効果的に活用した「主体的・対話的・深い学び」となる授業に向けて、日々教材研究に励み、授業改善に取り組んでいる。教職員の授業力に関する自己評価でも肯定的な評価となっている。今後も校内研修を中心に教職員の資質向上に努めていく。 組織力については、保護者の93%（昨年度より7%増加）が「教職員がよくまとまり、それぞれが役割を果たしている」と回答している。教職員の自己評価でも100%肯定的な評価を得ている。今後も教職員が一丸となって、児童の指導にあたりたい。	B	・校内研修の充実を図り、教職員一人一人の授業改善や指導力向上に取り組む。 ・オンライン学習に向けた研修を定期的に行う。 ・ミドルリーダーの育成と若手教員の授業力向上を図るため、メンター制度の改善を図る。 ・今後も、何でも相談できる職員関係の構築を図り、全教職員で児童支援を行う。	B		
	環境整備	安全できれいな教育環境の整備	「時間いっぱい一生懸命そうじができている」と回答している児童が86%にとどまっている。（昨年度より6%減少）毎日の清掃時間に集中できていない児童もおり、今一度掃除の仕方について、全校で共通理解を図る必要がある。99%の保護者が「よく清掃され、掲示や花壇などきれいな環境である」と回答している。今後も児童と教職員が協力して、教育環境の整備に努めたい。	B	・清掃時間の取組について、教職員で見直しを図り、改善に努める。 ・委員会活動（保健委員会・環境委員会等）を中心に、全校児童で「美しい学校づくり」に取り組む。	B		
教 育 活 動	学力向上	基礎・基本の定着 学習意欲	児童アンケートでは「進んで読書している」「進んで学習している」とともに73%と昨年同様の低い結果となっている。しかし、「家庭で読書や勉強を自分から進んでしている」と答えた保護者は57%（昨年度51%）に増加し、少しずつではあるが家庭での学習習慣も定着しつつある。今後も家庭と連携し、児童一人一人の学習意欲の向上並びに学習習慣定着に向けての取組を継続していきたい。	B	・本校の実態にもとづく「学力向上実行プラン」を設定し、それに基づく着実な実践を全教職員で行う。 ・家庭での学習時間の確保などについて、より一層家庭への啓発を図る。	B		
	心の教育（人権教育）	人権尊重の精神の育成 いじめ防止	「学校いじめ防止基本方針」にもとづく「いじめアンケート」等も定期的実施し、いじめの早期発見と防止に努めている。今回のアンケートでも95%の児童が「友達を大切にし、仲良くできている」と答えている。今後も児童一人一人の人権を尊重した学校・学級経営に取り組んでいく。また、保護者に対しての人権啓発にも努めたい。	B	・「いじめ防止子ども委員会」の活動を活性化し、定期的・継続的に活動することで、学校全体で人権意識の高揚やなまづくりを進める。 ・校内研修の充実を図り、教職員の人権教育に関する知識・技能の向上に努める。	B		
	生徒指導	遵法精神の育成	きまりの遵守や善悪の判断については、児童の90%、保護者の93%が肯定的に評価している。今後も道徳の学習を中心に、学校の教育活動全体を通して、きまりの遵守、善悪の判断等についての指導を徹底していく。また、学校便りや学級便り等を通じ保護者との共通理解も深めていく。	A	・育成センターや警察などの関係機関との連携を深め、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材にも引き続き支援をお願いする。 ・道徳や特別活動の時間の指導を充実させる。	B	B	
	健康・体力づくり	基本的な生活習慣の確立 運動習慣の定着	「早寝早起き」については「よくできている」「できている」と回答した児童が64%（昨年度より6%減少）保護者も「規則正しい生活ができ、進んで運動しているか」という問いの対し、肯定的な評価は68%（昨年度より5%減少）にとどまっている。学校と家庭が連携して基本的な生活習慣の定着・向上を目指す。 運動習慣については「自分から進んで運動をしているか」という問いに対し、児童の80%が「よくできている」「できている」と回答している。児童会や保健委員会、体育主任、養護教諭等が中心となって計画した体力向上プログラムの実施により、体を動かす活動が増えてきている。今後も継続していきたい。	B	・生活習慣について、家庭への啓発活動の改善に努める。 ・今年度実施した体育集会を継続し、児童の運動習慣の確立に努める。また水泳カード・なわとびカード等を効果的に活用し、それぞれの学習終了後には、賞賛の機会を設ける。 ・引き続き徒歩通学、外遊びを奨励する。	B		
	安全教育	危機に対処する能力の育成	「災害や事故から自分を守る方法を知っている」と回答した児童は95%、保護者は75%（昨年度より10%増加）となっており、学校における安全・防災教育の成果が出てきている。コロナ禍ということで、例年どおりの避難訓練や不審者対応訓練などを行うことは難しかったが、今後も警察、市青少年育成センター等関係諸機関と連携を深め、協力を得ながら児童の命を守るための多様な訓練を実施していきたい。	B	・児童が防災教育で学んだことを家庭で保護者と話し合う機会がとれるようにワークシート等を工夫する。 ・多種多様な避難訓練を実践し、児童の防犯・防災意識や実践力の向上を図る。	B		

- 4 学校評議員さんからのご意見
- ・コロナ禍で校外の人材との交流が少ないことは、児童にとって残念なことであるが、コロナ収束後に期待したい。
 - ・臨時休業時におけるオンライン授業の取組を引き続き推進していただきたい。また、児童のインターネットへの慣れが良い方向に繋がるようにしていただきたい。
 - ・コロナ禍で対策や対応も大変だったと思うが、そのような非常時の中から得られた知見が、今後の改善策等に活かされることを願っている。

5 総合評価

「健康・体力づくり」に関して、児童の基本的な生活習慣の確立が喫緊の課題である。家庭への啓発活動を改善し、学校と家庭が一体となって課題解決に取り組んでいく。「学力向上」に関しては、児童の学習意欲を高めていくことが急務である。学習意欲を高める手法について、教職員が研究するとともに、校内研修計画を見直し、教職員一人一人が研究授業を行うなど授業改善に向けての取組を強化していく。「環境整備」に関して、「一生懸命そうじができている」と回答した児童の割合が減少していることを踏まえ、今一度掃除の仕方について、全校で共通理解を図る。たくさん課題はあるが、重点的に取り組む内容を精選し、できることからはじめ、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指していきたい。